

## *Clostridium piliforme* 自然感染による心筋炎および脳炎を呈したコモンマーモセットの 1 例

○吉田佳子、二瓶和美、中村孝、高橋拓、小松守、小川博之、代田欣二、中山裕之、内田和幸

【背景】 ティザー病は *Clostridium piliforme* による感染症である。罹患動物は、腸炎や肝臓の多巣状性壊死を発症し、心筋の多巣状性壊死が生じることもある。しかし、中枢神経系に病変を形成した報告は、実験的な *C.piliforme* 脳投与例を除いてない。今回、*C.piliforme* 自然感染により中枢神経系に病変を形成したコモンマーモセットに遭遇したため、報告する。【症例】 8 日齢、雄。突然死した。剖検時、肝臓および心臓の周囲に出血を伴う白色結節を多数認めた。胃から小腸に食塊は認められず、大腸にはミルク便を認めた。脳には著変を認めなかった。【組織所見】 大腸には軽度の炎症が観察された。肝臓および心臓には広範囲に多巣状性の壊死巣を認め、大脳にも限局的な壊死巣を認めた。これら病変部周囲の比較的正常な肝細胞、心筋線維、腸上皮および神経細胞には、ギムザ染色陽性の菌体が細胞質に観察された。本菌は免疫組織学的に抗 *C.piliforme* 抗体に陽性を示した。【考察】 一般的に *C.piliforme* は芽胞の経口摂取により自然感染する。腸が本菌の侵入門戸であるにも関わらず、本症例の大腸炎は過去の報告に比べ軽度であり、同部の病変は回復期にあったと考えられた。また肝臓および心臓には重度の病変が認められ、大脳では軽度の病変が認められたことから、本症例の直接の死因は肝臓と心臓の病変が強く関与したと考えられた。*C.piliforme* 自然感染による脳炎が稀である理由は、中枢神経系病変はティザー病の末期に形成されるためと考えられた。